



『国境を越えた交流』

2

ピラポ移住地入植 45 年祭 大統領も出席

パラグアイ・ピラポ岩手県人会創立45周年式典は、8月1日増田寛也県知事名代として、県地域振興部文化国際課「稲葉比呂子」総括課長一行や、アスンシオン、イグアス、ブラジル県人会などを迎えて、記念式典や祝賀会が行われました。(前号まで)



入植式典



ニカノル・ドゥアルテ大統領

2日、入植祭に先立ち、ピラポ共同墓地内にある「拓墾」と刻まれた石碑前で、招待者や入植者により厳かに合同慰霊式が行われた。

その後、落成式を兼ねた入植式典が新装なった市議会大ホールに、ニカノル・ドゥアル

ルテ大統領や副大統領、政界代表者を迎えて行われ、大統領や市長、日本国大使などが挨拶、増田県知事の祝辞も稲葉課長が代読。実行委員長から感謝状が大統領や関係者、また増田知事、工藤会長らに贈られた。

岩手県の支援も得たピラポ日本人会の多目的スポーツセンター(2600㎡)が大統領によってテープカットされ、参会者と気安く握手するサービスもあった。

祝賀会は入植者の手作り料理を来会者1千人以上が味わい様々な交流となった。

同入植祭は、7日まで井上裕見歌謡ショー、ユババレーなどの公演と南米やはるばる母県岩手相撲連盟(遠藤勇名誉会長)、選手団が参加する国際親善相撲大会などが開催されるとのことであった。

パ国出国時間の関係から、会員との名残りを惜しみながら再会を約束。午後1時半お別れし帰路へ。

3日午前10時予定通りサンパウロ着。

慶祝参加者は高齢者が殆どで、車酔いや一時体調を崩された人も居たが、事故もなく「国境を越えた交流」と再会に皆さん満足したとの感想がありました。お疲れさま。

☆ 畑氏はVTR取材された。



合同慰霊式

ドラマ 「ハルとナツ」 いよいよ放送

ブラジル農園の住宅ロケ・セットの前で、記念写真(村田雄浩ほかの皆さん)



NHKが放送開始80周年を記念して製作した移民ドラマ「ハルとナツ・届かなかった手紙」が10月2日から5夜連続放送が決まった。

ドラマは10月2日(日)午前9時から10時半まで(第1

回)、2回から最終回までは午前9時から10時15分までの放映となる。(ブラジル時間)

試写会で観た人は「泣けしょうがなかった」と感想を。お見逃しなく。



高橋信夫

8月21日
(日)、第29
回を迎える「会員
交流懇親

会・誕生会」が、午前11時から多田マウロ副会長の司会で始まり、先ずは、先没者への黙祷、千田会長が開会の挨拶、高橋信夫理事による「健康講話、指導」、畑勝喜氏の戦後60年「疎開先(当時11才)一関で迎えた終戦の思い出」など貴重な体験談があった。

続いて伊藤長老の乾杯の音頭で会員皆さんの持ち寄り料理に、金宝丸から贈られた茹でた「蟹」やスープ。会が用意した刺身で祝宴に移行。

交流懇親会 誕生会



先の第8
回日本ま
つりに展
示された、
母県花巻
市や金ヶ崎町からの「子供た
ちの作品」と「杉村公使の記
録」も改めて会員皆さんに紹
介されました。

ビデオ「県人会レポート
2004」を観ながら懇親会が続
くなか、青年部により「ビン
ゴ」があり、大きなケーキを囲み70歳以上の会員の誕生会が
行われ、県人会から小さなプレゼントが贈られた。

当日は多団体などのイベントが多かったためか、参加者は
50名程であった。



畑勝喜氏

県人会について思うこと

及川 さおり (江刺市出身)



ブラジルに来てから、早いもので一年と半年が
過ぎました。JICAの日系社会ボランティアとして来
伯。配属先が偶然にもサンパウロでした。そのお
かげで県人会活動に、たまにですが参加すること
が出来とても運が良かったと思います。

この間私は、たくさんの事を学びました。また、優
しいお言葉をかけて下さる会員の方々もあり、本当
に県人会は日本人会とは違う、もっと温かみのあるものと感じております。

先日、パラグアイピラポの岩手県人会が創立45周年を迎えるにあたり、ブラジル県人会から慶祝一行の旅行があり私も一緒に訪れた訳ですが、18時間というバス旅行に、よくもママ、高齢の方々が耐えられたと本当に感心しました。耐えるどころか元気マンマンなのです。

私はその方々の半分の年齢にも満たないのに、グツタリでした。乗りもので具合が悪くなるのではとか、トイレの心配などで、あまり食欲がありませんでした。途中の食事休憩では、皿に山盛りの食事をしていた高齢の方がいました。全くおどろきものです。私はここで、「ああ、戦前移民は強い、こんなバスの長旅なんぞ苦ともしない」と思いました。

私は、この旅行に申し込むことすら、ん〜・・・と少し考えた程なのに、参加者のほとんどは高齢者でした。さすが、このブラジルで移民の苦勞を乗り越えた人達は、気持ちも体も強いですね。私は腰掛けながら、ぼんやり彼らを眺めていました。

パラグアイに着いてからは、さらに県人の「色」が濃かったように思えます。精一杯の温かいもてなしを受け、我々ブラジル岩手県人会一行は楽しい時間を過ごしました。

特に、岩手の郷土芸能の一つである、岩崎鬼剣舞の披露を目にし、こんなに離れた土地で郷土芸能が県人や若い人達によって引き継がれている、と、嬉しく思いました。今、ブラジルでも和太鼓をはじめとした、日本の芸能が注目されています。しかし郷土芸能は、もっと地域を限定して生まれ育った芸能であり、異国ではむづかしい事だと思いますが、それを引き継いでいる移住者や子弟に感動しました。

私がここにいるのも、あとわずかとなりました。今後も岩手県人会員が親睦を深め、さらに発展されることを心から願ってやみません。

パラグアイ訪問ツアーに参加して

三谷 堅一 (埼玉出身)



サンパウロ市から、隣国パラグアイのピラポ移住地まで、片道凡そ1500km。日本国内で例えると、東京から長崎までに相当するほどの距離です。

去る7月30日から8月3日まで、岩手県人会主催パラグアイへのバス旅行は、ピラポ(イタプア県旧アルトパラナ)県人会創立45周年記念式典に出席する慶祝ツアーでした。

43名の参加者は、男女ともに80歳を越える方々も多く、年齢を感じさせない元気さには正直圧倒されました。

私は、50年前にピラポより古い当時のフラム、現在はラパスと云われる地区に入植しました。結果的に私は5〜6ヶ月で首都アスンシオン市に移りましたが、今回45周年を迎えたピラポ移住地は、当時ジャングルの真只中でそのプロジェクトすらなかった頃でした。

ピラポには私の同船者がいて、20年位前に個人旅行で一度訪ねた事がありますが、以後互いに音信もなかったのも、何か関連する情報でも得られればと願っての参加でした。

今回ピラポ到着後早々に、この同船者に逢う事が出来ました。知人の名前は馬屋敷工(たくみ)さん、なんと今回お世話になった、工藤ピラポ岩手県人会長の妹さんが彼の夫人だった事を初めて知りました。また、彼は1981年に第15代の富美村の村長や会長も務めていました。

45年の年月は、あの太密林を小麦畑が地平線まで果てしなく続く、大穀倉地になっていました。しかし、そのかげには多くの人達の筆舌に尽くせぬ労苦があったこととされます。最後に今回のピラポ訪問で、(ピラポに限らないかも知れませんが)戦後パラグアイに出来た日本人移住地の二生三世の若い人達が、日本語を良く話し、且つその日本語がとても流暢で、綺麗な言葉であるのに驚きました。また、私の感じた限りでは方言も殆どありません。

最後に、重ねて今回の旅行にお世話を頂いた関係者の皆様に、紙上を借りて厚く御礼申し上げます。

賛助会員紹介



第44号
遠藤 勇 80歳
ISAMU ENDO

岩手県相撲連盟
名誉会長
東北相撲連盟顧問

住所 岩手郡西根町田頭 19-59-2
〒028-7112 電話 195-76-4806
会員 (B) 2口 ご入会日 22/7/05
訪問 ブラジル5回、パラグアイ3回

第45号
杉村 延広 51歳
NOBUHIRO SUGIMURA



大阪在 大阪府立
大学教授・工学博士
駐伯日本国ブラジル第3
代杉村濤公使の曾孫さん

住所 大阪府堺市高松 227-2-916
〒599-8121 電話/FAX 72-239-2024
E-mail: sugimura@mta.biglobe.ne.jp
訪問 2005年5月 公使の墓参に来伯
会員 (B) 1口 10年分納入 入会日 08/05

会費納入者名 (8月)

(敬称略)

野崎勝敏 岡田文世 (新)
浅見マリア (新) 野村光子テレザ (新)
古川ヒロ子シルバ (累計 144名)

寄付 寄贈

及川 君雄 様 一金 200 レアアイス
佐々木 憲輔 様 お茶菓子
増田 稲子 様 図書 2箱

県人会の動き (2005年8月)

- 3 パラグアイ・ツアー5日間の旅を終え、予定通り午前10時サンパウロ着。
☆ ニッケイ新聞に2日3日付けでピラポ県人会と移住地入植祭の記事。
- 4 援護協会施設「やすらぎホーム」へ、もちつき用具一式を貸与。
- 5 入植祭記事をパラグアイ工藤県人会長はじめ関係者に発信。
☆ パラグアイ3県人会へ「ビデオレポート岩手県人会一年の記録」2004を発送。
- 7 兵庫県人会創立45周年式典、井戸敏三知事一行を迎えて開催。千田会長夫妻出席。
- 8 賛助会員へ「岩手県人会一年の記録」45本 (DVD) を今夜訪日する藤村副会長へ依頼。
- 10 工藤ピラポ県人会より礼状受信。
- 12 東北親睦演芸祭第2回実行委員会開催。千田会長・阿部アイレス理事、山道事務長出席。
☆ 吉田重雄氏より県人会ビデオ受領の電話あり。
- 13 定例役員会 交流懇親会、キロンボ温泉、ピラポ訪問報告など。
☆ サンパウロ新聞にピラポ県人会創立式典記事掲載される。
- 16 増田稲子元副知事夫人 (神奈川県在・賛助会員) から、会員証受領と、東山魁夷展、浮世絵 (広重) 画集図鑑、健康に関する図書多数を発送されたと。
☆ 婦人部集会
- 18 杉村新氏から公使の記録についてメール。
- 19 会報131号を国内外へ約420通発送。
☆ 杉村延広氏より濤公使の遺品 (写真) と「賛助会員」申

- 込み書の送付あり。佐々木まり子さん (賛助会員) よりビデオ受領のメールあり。
- 20 婦人部蟹料理の用意。書画など展示作業。
- 21 第29回交流懇親会開催。
- 24 千田会長、昆野会計、諸手続きに銀行へ。
☆ 渡辺勉花巻市長より近況と、岩手日報に掲載された「旅は食にあり・サンパウロで《やきそば》に人気あり」記事の送付あり。
- 26 県連代表者会へ会長出席。
☆ 西林万寿夫サンパウロ新総領事の歓迎会に会長出席。
☆ ビデオ「ブラジル岩手県人会の一年」を、県国際課より頂いたと吉田恭子さんよりメール。
- 28 群馬県人会60年式典に山道事務長夫妻出席。
- 29 賛助会員「和美宏幸」氏より「県人会ビデオレポート2004」受領のメール。
- 30 花巻市、金ヶ崎町へ「県人会ビデオ2004」を発送。(子供たちの作品提供のお礼)
- 31 サンパウロ総領事館で9月3日まで在外選挙投票受付開始。
☆ 婦人部集会
☆ 稲葉国際課総括課長よりメール。藤村副会長から依頼されたビデオ・レポートは賛助会員に送付。早速鈴木直志氏、一戸和氏よりお礼の連絡があったとの事。
☆ 岩崎雄亮NY会長より写真のお礼。移民100周年には是非訪伯したいとメール。
☆ 岩船信一氏 (賛助) 神奈川へ移転のメール。新住所: 神奈川県藤沢市大館1丁目14番 3-302号 〒251-0002
《E-Mail: aya.1935.4@yahoo.co.jp》

お・知・ら・せ

● 東北6県北海道親睦演芸祭

10月9日 (日) 午前9時より「第22回東北6県・北海道親睦演芸祭」が行われます。
場所 宮城県人会館 (RFagundes, 152 - Liberdade)
種目は、民謡の部、童謡唱歌の部、歌謡の部で各県が競い、特別出演には会長の部、ピンゴ、各県自慢の演し物などあり、岩手県人会では太鼓教室の皆さんが特別出演致します。
応援をお願いします。

● VIDEO REPORT 2004

県人会では、畑勝喜氏の協力により「ビデオレポート2004・ブラジル岩手県人会の一年」を作製。皆さんに実費 (40レアアイス) でお分けしております。テープ・DVDもあり、申込みは県人会まで。今年の記録も撮影取材中お楽しみに!

● 県人会ホームページ

www.iwate.org.brへ接続下さい。HPでの会報は8月号からカラーになり、その他の写真を掲載予定。お寄せ下さった寄稿で、紙面の都合により会報に掲載出来ない場合はホームページでご覧下さい。

E-mail: iwate@iwate.org.br

アマゾン及び北伯への旅

フーチャン

ポアピスタ市よりマナウス市
(750 キロ)

午前10時にポアピスタ（眺望絶佳の意）市出発し夜中に通った高速道路を日中に走る、バスは些か古くクーラーがきかないが、有り難い事に透明な窓ガラスからは外の景色がよく見える、パンアメリカン・ハイウェイと平行して三相の高圧電線の鉄塔が見える、32 K V A の表示、これはベネズエラからポアピスタに電力を供給（購入）しているのである、以前はマナウス市から送電していたのが、価格の為か何かの事情で輸入に変わったようだ。

赤道を通過する場合は写真を撮るから知らせてくれと運転手に頼んで置いたのに、無断で通過した、それにはそれなりの理由があった。酔っ払いが一人乗っていて皆にクドクド話しかけ、ひんしゅくを買ってたがその内ふと眼が合ってしまった筆者を恰好な話相手と思ったのか、オイ・ジャポンと来た。ジャポンは国名で人を呼ぶ場合はジャポネスと呼ぶんだ、それにお前とは話はしたくないからと会話を拒んだら、シツコク絡んで来た、こういう場合は揚げ足を取られないように『黙れ無礼者下がれ』と日本語で怒鳴るに限る。

バス会社の人間が来て、国際紛争を避けるために、謝って前の席に移動してくれという、昼食時に彼を置き去りにしようとしたら、泣いて今度は迷惑を掛けないからと、しおらしく成ったが走りだしたら元の木阿弥。その内運転席にまで侵入しだして危なくて仕様が無い、そこで『我々日本人はブラジルで死んでも日本で生まれ変わるから良いが、諸君はそうは行かないだろうから気を付けてくれ』と注意する。

彼は元警察官で現職が先輩を処するのに苦慮しているとの事、マナウスに到着したとき彼は床に死んだように眠っていた。

楽しく旅をする場合は周囲の人間と友好を保つのが秘訣である。例えば何かの事情でバスに乗り遅れて迷惑を掛けた場合は『このバ

スは皆美人ばかりなので、間違えたと思いつい別のバスのほうに行き遅れて仕舞った』と言えば誰も文句を言わないものだ。

ついでに、会話の途中で相手の気に障ることを言う場合があるがこういうときは『ごめんごめん、つい間違えて本当の事を言って仕舞った』と謝るのである。

笑わしてから兄にこういう訳で皆が笑ったんだよと、一々説明するのである。

その騒動で赤道は乗客が今通ったよと知らせてくれたが、後の祭り。マナウスに到着したのは午後9時、港に近いホテルに宿泊する、案内書を頼りにして選んだが各人の価値判断に差異が有るため、当たり外れがある。

今回の外れの方であったが、文句を言ったら安くしてくれた。

翌日は早速港に歩いてベレン行きの船を調べる、マナウス迄の船が酷過ぎたから、イメージアップの為に良い船にしようとしたら、出発は3日後の10月1日と言う、2人船室で一人325 R s で少し高い気がするが、経済競争の原理が働かない世界だから仕様が無い。

チケットを購入し、歩いてアマゾナス劇場を見物に行く、15分程待って一群のグループが形成された所で、案内嬢に導かれて説明を受

ける、案内嬢に是非あれをやれと言ったが、到頭最後までやらずに誤魔化した。

それは以前にも記したが、昔も今と変わらず御婦人方が化粧に時間を取られ、劇場開演後に馬車でガラガラ駆けつける為に、劇場の周囲にゴムを敷き詰めた話である。我々のグループには婦人が多かった為に遠慮して説明しなかったと見える。

案内者が貴方はこの劇場には何回来たかと聞くから、5回か6回目だと答えたら、それなら私より詳しい筈とシャッポを脱いだ。

窓口に橋本博物館は開いているか聞いた所、今日は日曜日で閉まっている筈と言う、普通美術館とか博物館は月曜日が閉館で日曜日は開いているのが常識と言うものだ。

ブラジル人が一人自分が良く知っているから、車で連れて行くと言うそれに任したら矢張り閉まっていた。近くの日本人会の運動場を見たり、ゴルフ場を見たり、ジュースを飲んで帰ることにした。そうしたらリオネグロの河に良い水浴場があるから行こうという、動物園に連れて行かれたが、暑くてたいした動物もいない、こちら

が付き合っただけで遣っている具合に成ってしまった。

親切の押し売りで変な奴と思って職業を聞いた所、以前はタクシーの運転手だったが、今は印刷屋なようだ、以前の職業意識が働いて客引きの癖が直らないのである。

幾ら払えば良いかと聞いた所、おくめんも無くガソリン代40 R s と言う。

マナウス市もご多分に漏れず失業者が多く、タクシーが多く走っているが雲助が多い、殊に運転席

に新約聖書を置いてある奴が曲者だ、人をして油断させるのだ。態と道を間違えた振りをしてメーターで稼いだり、博物館に行けと言えば土産屋だったり、ろくな奴はいない、ひどい奴には警察署に連れて行けと言ったらどうだろう。

市中を歩いていたら、日本語、英語、ポ語、スペイン語で話しかけて来た奴がいたがこんなのは、怪しい奴に決まってるから無視するに限る。

翌日ホテルが紹介したタクシーに乗り橋本さんの博物館 (MUSEU DE CIÊNCIAS NATURAIS) に行く、以前3匹いたピラルクー（現地語で赤い魚の意）は未だいるかいと尋ねた所日本から来てる留学生風の若者が今は五匹いると胸を張った、小さい時から養っているので人間に慣れていて、覗き窓に寄ると向こうから近寄って来て何ともユーモラスな顔を見せる。

この惚けた顔で1億年も同じ姿で生き残りとは恐れ入る。

夕方ホテルの側のランシヨネッテでピラルクーのフライでビールを飲む。

近くの広場でTシャツとか弓矢、吹き矢の一式を買う。

次回はマナウスからベレンへ



アマゾン川の住居



アマゾナス劇場

IMPRESSO

沢内
さわうち



和賀川上流
わがかわしやうりゅう

民謡「沢内甚句」のふるさと、沢内村は、そのむかし南部藩の隠し領地だったともいわれ、奇麗な自然とたたかいいなかで生きて来た私たちの祖先の苦闘の歴史を今に伝える「民俗資料」が豊富に残っており、これらを一堂に集めた「碧祥寺博物館」は、マタギ用具をはじめ、衣・食・住の生活用品や信仰、娯楽・古文書、工芸などの珍しい資料が5,000点も陣列されております。



Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil

ブラジル岩手県人会

RUA THOMAZ GONZAGA, 95-M - CEP 01506-020 - LIBERDADE - SÃO PAULO - BRASIL

TELEFONE 55 (11) 3207-2383 – FAX 55 (11) 3277-0403

www.iwate.org.br – e-mail: iwate@iwate.org.br